

ボランティアの心

にっこり笑顔の宅配便

飯井冴子（一般：灘区会）

私を、じいっと見て、「あんだ、太っとうねエ」と入所者のAさん。「わあーAさんが、きょうも云ってくれた!!（笑）」特養ホームのフロアで、私はスタッフの方と一緒に喜んでしまいます。

私は今、特養ホームの傾聴ボランティアに行っていますが、入所者一人ひとりの歴史と向き合うことができ、いつも溢れんばかりの想いのうちに帰途につきます。

ホームには、60歳代から100歳を超えられた方々が、それぞれの認知度、障害度のなかで過ごしていらっしゃいます。

入所者のうち、おしゃべりのできる方は20%程度です。

毎回行ってお話をして、いつも「こんにちは、はじめまして、飯井と申します」から始めなけれ



ばならない方。「こんにちは」というと、パッと瞳を輝かせて、手を握って離されない方。いつも昔の時代（武士登場）に自分を置いていらっしゃる方。歌が好きで、童謡、唱歌など一緒に大きな声で歌われる方…。

「小さい時は苦労したー」と話される方が多いけれど、私も同じ年代であればこそ「そうでしたよねえ」とうなずいてお話を続けることができるのではないかと思います。こういうときは高齢者ならではの出番!!と勝手に満足しています。

ホームを訪問して、いちばん心掛けていることは、入所者への接し方です。最も大切なことは、相手の人格を尊重し、ちゃんとお名前で「誰々さん、どうですか」とていねいに話しかけることだと思います。

さて、今まででいちばん嬉しかったことは——入所者の方に、「あんだ笑顔良しやなあ、あんだの笑顔、好きやでー」と云われたとき。ほんと、ボランティア冥利につきます。

お茶やお花にチャレンジ

初霜が降りた11月29日、「伝統文化体験教室」が北区花山小学校で開催され、6年生77人がお茶・お花・着物の着付け・銭太鼓・大正琴の5コースに分かれチャレンジしました。

9時半、児童とシルバースタッフが対面してさっそく開始。2時間足らずの授業でしたが、子供たちは目を輝かせて取り組み、成果?を皆の前で披露しました。

お茶を学んだ子供たちはお点前の挨拶の仕方・立ち居振る舞いがすっかり板に



つき、お花（写真⑤）の作品は個性豊かで、すっきりまとまっており、スタッフもびっくり。着物を着た途端に動作が一変、しゃなりしゃなりと職員室まで歩いていく児童もいました。法被にたすき姿の銭

太鼓、初めて触れる大正琴（写真⑥）。共に短い時間にもかかわらず見事に演奏してくれました。

どのコースもすばらしい出来栄で、男女がそれほど偏ることなく、共に楽しむ姿が素敵でした。

校長先生からも「日本の心をこのような活動を通じて教えていただき、感謝します」とお礼の言葉がありました。花山小では毎年、伝統文化教室を開いており、こうした経験が子ども達の心のゆとりとなり、日本の文化を理解する一助になってくれれば、と思った半日でした。各コースをお手伝いくださったスタッフの皆さま、お疲れさまでした。

（広報委員・徳原尚代）

この事業は、独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業によるものです。